

## 1.14 年9 月期決算の概況等

14 年 9 月期決算につきましては、収益動向及び計画(図表 1-1)に示したとおりであります。

### [ 業務粗利益 ]

14 年 9 月期の業務粗利益は、前年同期比 486 億円増益の 8,979 億円、また国債等債券関係損益を除くベースで前年同期比 23 億円増益の 8,215 億円となりました。

内訳をみますと、子会社等からの配当の減少等により資金利益が減少する一方、シンジケーションや私募債引受といった投資銀行関連業務を中心に役務取引等利益が増益となったことや、本邦債券相場の変動やドル金利等の動向を捉えた内外債券投資により、国債等債券関係損益が増益となったこと、等が主な要因であります。

### [ 経費 ]

経費につきましては、前年同期比 123 億円減少いたしました。これは、人員の削減を主な要因として人件費が 109 億円減少したほか、1 ヶ所に 2 ヶ店が併存する共同店舗の拡大や事務合理化の推進等により、物件費が 23 億円減少したことが主因であります。

### [ 業務純益 ]

以上の結果、一般貸倒引当金繰入を除く業務純益は 5,767 億円と前年同期比 609 億円の増益となりました。

### [ 臨時損益その他 ]

貸倒償却引当費用につきましては、不良債権処理が 2,457 億円、一般貸倒引当金繰入が 206 億円、合計 2,663 億円となりました。不良債権処理の主なものは、貸出金償却等 1,019 億円、個別貸倒引当金繰入 1,406 億円であります。

株式等関係損益につきましては、株式等売却損益及び償却のネットで 1,918 億円のマイナスとなりました。

東京都・大阪府に係る外形標準事業税につきましては、その他の経常費用として計上しておりますが、大阪府の事業税については昨年度分の納付の適用が延期となったため、昨年度に引き当てた金額のうち大阪府の分が戻し入れとなり、前年同期比 105 億円の減

少となっております。

#### **[ 経常利益 ]**

以上の結果、経常利益は前年同期比 274 億円減少の 997 億円となりました。

#### **[ 特別損益 ]**

動不動産処分損益は、経営合理化の一環として廃止した店舗・社宅等の不動産処分損のほか、現状復旧に係る除却損、解体損が発生し、96 億円の損失となりました。

また、退職給付会計基準変更時差異償却として 101 億円を計上したほか、システム統合に伴うシステム関連の除却損等により、特別損益全体では 387 億円の損失となりました。

#### **[ 中間利益 ]**

以上の結果、中間利益は前年同期比 349 億円減少の 449 億円となりました。

#### **[ 中間連結決算 ]**

連結決算の範囲につきましては、実質支配力基準、実質影響力基準に基き、判定しております。14 年 9 月期につきましては、連結子会社 147 社、持分法適用会社 38 社、計 185 社について、連結決算を実施いたしました。

連結の損益といたしましては、経常利益は前年同期比 354 億円増益の 1,499 億円、中間純利益は前年同期比 209 億円増益の 551 億円となりました。

また、14 年 9 月末の連結自己資本比率は、10.37%となりました(図表 2)

#### **[ 15 年 3 月期決算見込み ]**

15 年 3 月期決算(銀行単体)につきましては、業務純益(一般貸倒引当金繰入前)1 兆 800 億円、経常利益 1,250 億円、当期利益 300 億円を見込んでおります。